

時空の漂泊

(二〇一〇年十二月二十日 第四十一号)

高橋 滋

広島便り

二〇一〇里山を歩こう (八)

身近な自然観察

梅雨の止み間 七月九日(金)

金曜日に佐伯の花上の小屋に出掛けた。今年の梅雨は、ぼんやりとした曇りや雨の日が続く。それでも止み間に今の時期らしい花が咲く。ネムノキはピンク色が独特で、姿も清楚、好む人が多い。

アジサイ(栽培品)もよく見るとなかなか複雑な形に驚かされる。かつてアジサイは手鞠てまりのように咲く品種が中心だ

合歓木 マメ目、ネムノキ科。夜に葉が閉じることからネムと呼ばれるようになる。
紫陽花



つたが、写真のガクアジサイ系やアマチャ系列(山草風)、葉がカシワのような感じのもの、枯れた花も綺麗に残

額紫陽花 花びらが額縁のように咲く。
甘茶 紫陽花の仲間。葉を乾燥、甘茶を作る。
柏葉紫陽花 カシワバアジサイ



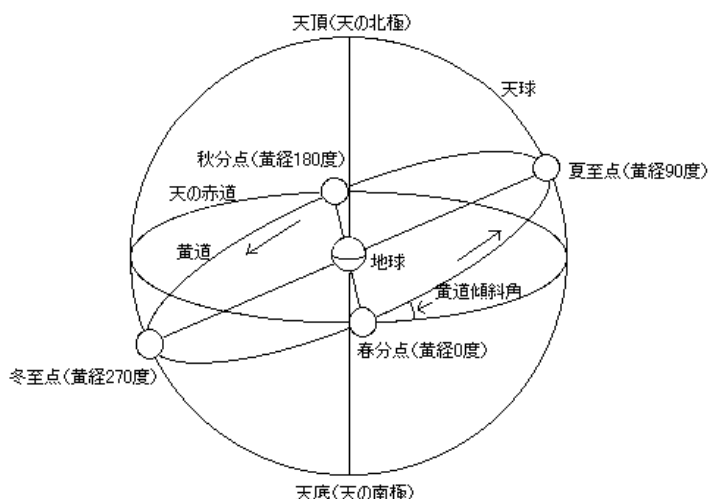
るアナベルなど、現在は多様になっている。

原産地 北米



隣家のガーデンにマタタビのような白い葉を付けた野草があり、ラベルを見たらハンゲシヨウ（半夏生）とあった。半夏生には「半夏」という里芋科の生薬

ドクダミ科の多年生落葉草本。節分、彼岸、社日、八十八夜、入梅、半夏生、土



となる植物が生える頃」という意味があり、それから季節の移り変わりを的確に掴むに作られた九つの「絶節」の一つで、太陽が夏至点（黄経九十度）から数

用、二百十日、二百二十日。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/キチヨウ>

えて十一日目、現在では黄経百度を通過する日、毎年七月二日頃のことを指すようになったと言う。

ハンゲシヨウという名前の由来は、①この半夏生の頃に花を咲かせる、②葉の片面（表面）だけが白くなることから「半化粧」とする説がある。葉の片面だけが白くなることからカタシログサ（片白草）とも呼ばれていると言う。

ニイニゼミを鳴き始め、「盛夏近し」の感がある。端境期なのか、蝶は大変少ない。キチヨウが飛んで来た。後で図鑑を見たら「キチヨウはネムノキを好む」とあった。インターネット上にもキチヨウとネムノキを結び付ける写真や記述がいろいろあった。



キチヨウの幼虫の食草はネムノキ、ハ
ギ類など。 キチヨウの羽化とネムノ
キ。写真は幼虫時代のキチヨウ。ネムノ

<http://www.insects.jp/kon-tyoki.htm>
<http://ja.wikipedia.org/wiki/ネムノキ>
トンボ科アカネ属（アカトンボ属）。



キがお気に入り。 ネムノキはキチヨウ
の食草。

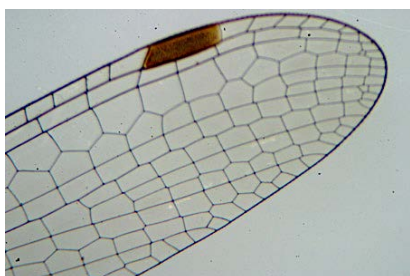
日本では二十一種類。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/赤とんぼ>
<http://ja.wikipedia.org/wiki/シヤマアカネ>

浅い色をしたミヤマアカネ（深山茜）

もやってきた。いわゆる赤トンボの仲間である。インターネット上では「成虫は体長三十二〜三十九ミリ程度。翅の縁紋内側にある褐色の太い帯と、翅脈まで色づくのが特色で、他種との判別は容易。胸部側面はほとんど無斑である」からはじまっているいろいろな書かれていた。

なお、縁紋とは写真の翅の前縁にある紋である。

翅に太い紋が走る
のはミヤマアカネの
み、と説明があつ
た。秋になるとここ
が赤くなる。



http://blog.goo.ne.jp/yamab_2005/e/63153377250dd426d5a5dec18305121

里山を歩こう 七月十六日(金)

先週に続いて今週も金曜日に佐伯の花上の小屋に出掛けた。

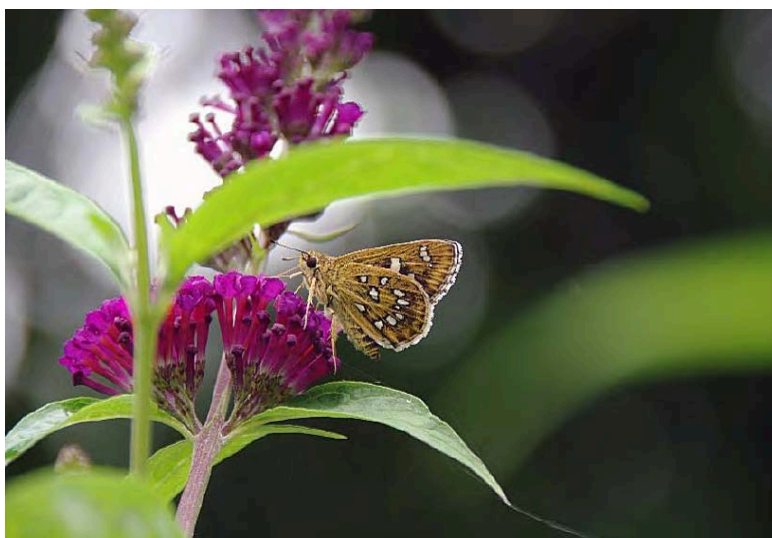
小さな花を穂状に沢山付けるブッドレアの灌木が咲いていた。香りと蜜があり、蝶を呼ぶ灌木ということで、バタフライブッシュとも呼ばれているだけあって、まだ梅雨が明けていない空模様なのに、沢山の蝶を呼び寄せている。

写真の写りは今一つだが、ブッドレアの花に留まるアカタテハ(赤立羽)。続いてホソバセセリ、イチモンジセセリ、キマダラセセリなどセセリ蝶の仲間が入れ替わりやって来た。

アカタテハ



ホソバセセリ

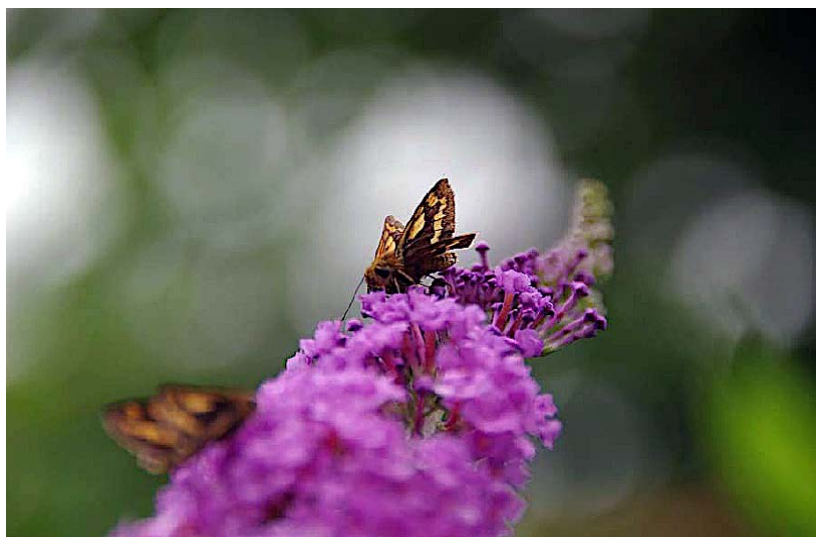


紫蘇科。円筒形の花穂が弓矢を入れる鞆（うつ



イチモンジセセリ

ぽ）に似ていることに由来。



キマダラセセリ



小さくてすばしこいスジグロチャバネ
セセリも咲き残りのウツボグサに留ま
った。

しかし、アゲハ蝶の訪問はゼロだった。クサギの花が咲く頃になると、また増えるかも知れない。



臭木。葉に悪臭がある。花は甘い香りがあり、昼間はアゲハチョウなどの大型蝶が、日が暮れると蛾が寄ってくるという。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/クサギ>
樹上性のシジミチョウの仲間。日本には二十五種

ゼフィルス を待っていたが、ムラサキシジミ が来ただけだった。

オカトラノオ 七月十九日（日）

野の花が少ない時期である。やや明るいところにまとまって咲くオカトラノオ。
茶花としては喜ばれるらしい。

これそのものがリシマキア の名で園芸図鑑に載っているが、この属には姿がずいぶん異なる種もあるようだ。



が生息するという。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/ゼフィルス>
<http://ja.wikipedia.org/wiki/ムラサキシジミ>
<http://ja.wikipedia.org/wiki/オカトラノオ>

http://www.oook.net/cgi/shikihime/shiki_50.htm
<http://flower365.web.infoseek.co.jp/24/345.html>
<http://www.weblio.jp/content/ロシマキア・ピンクタート>



ジャノメチョウ

林間を飛ぶ地味なチョウだが、よく見るとなかなかお洒落な斑点を持っている。